

令和元年度第2回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和元年度第2回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和2年2月12日（水） 午後1時30分～3時40分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案件

- (1) 議長・副議長の選任
- (2) 令和元年度第1回郷土館協議会における委員からの意見に対する対応等について
- (3) 令和元年度事業実施状況及び利用状況について
- (4) 令和2年度事業実施計画（案）について
- (5) 青森県立郷土館の博物館評価について
- (6) その他

4 委員からの主な意見

- 第1回郷土館協議会での各委員からの意見をまとめてもらってありがたい。対応としては、「何々をこうした。」などという表現が少なく、「これから検討していきます。」「参考にしたい。」などといったものが多かったので、成果がここに記載されるのが理想ではないかと思う。
- デジタルミュージアムについて、今後更新されると思うが少し寂しい気がする。トップ画面を工夫して興味を引くようなデザインにしたり、項目や内容を探しやすくする必要があると思うので、若い人の意見を取り入れながら検討してほしい。
- 解説プレート等の字が小さく、見やすい大きさにしてほしいとの意見は来館した方に共通することだと思う。誤りや誤解を受けるような表記、資料の展示の仕方などの関係で解説文の一部が隠れていたり、顕微鏡のピント確認が必要なものなどあるので、訂正、確認等お願いしたい。
- トピック展示の「新種のスカシバ発見！」はウェブでも話題になっていた。その時話題になったものを展示することは皆さんの興味関心をひきつけるものなので、今後も検討してほしい。
- 特別展「ひらく・つくる・みのもるー青森の湿地と稲作のはなしー」で、津軽弁で解説しているものがあって、県外からの来館者のことも考えて、要点部分などには標準語の解

説や注釈を入れた方がよいと思う。また、「サルケ」の展示は、燃やした後の香り、嗅覚に訴えるような展示だったので、こういう展示もこれから大事なかなと思った。

- 特別展の「ひらく・つくる・みよる」の開催時期に、県立美術館の「農業がひらくアートの未来」展、三内丸山遺跡センターの「発掘された日本列島2019」展も見た。それぞれ別の展示なのに、どこかで通じるものがあり、それがハーモニーとなり、より奥深さを感じられた。県内、市町村の館同士が共通のテーマで展示してはどうか。
- 郷土館は、青森県全体のものを展示しているので、博物館として老舗中の老舗だと思うし、すばらしい知識とすばらしいスタッフがいて、日頃から研究や調査されていることに敬意を表したい。
- 企画展「縄文遺跡群と県立郷土館」について、郷土館ではいろいろな発掘調査を行ったが、県内の縄文の遺跡においてそれはどういう意味があって、発掘してどう感じたとか、その時の思いなどを伝えるには主張が足りないような気がした。資料の展示方法も含めもっと積極的に発信してほしいと思う。
- 利用状況について、昨年度と比較して来館者は減っているが、共催展・移動展の増により同程度の人数とのことだが、来館者数減には次に向けて積極的に姿勢が必要だと思う。
- アンケートの回収率が4パーセントという状況から、「ほとんどの来館者が良いと言っている。」と結論づけるのは難しいと思う。記入する時間などの関係で本音を書かない人もいると思うので、期間、時間を区切ってそこにいる来館者から聞き取り調査することなども一つの方法だと思う。
- 来館者へのアンケートを実施しているが、来館されない人もたくさんいるので、来館されない人たちに特化したアンケートもあったらと思う。
- 他館との連携について、文学館とも連携できればいいと思う。古事記や日本書紀などいろんなものに土偶の関係が出ており、ほとんどの土偶は女性が多いですから特に女性は面白く見られるのではないかと思う。
- 来館者へのアンケートにおいてクロス集計をし、分析することを提案する。年齢、居住地といった属性と、郷土館や郷土館の催し物を何で知ったかということなどとのクロス集計をし、どういう媒体で、どういう方たちにPR（例えば、郷土館のことを社会の人々に知っていただき、社会との間により良い関係を築くこと）していけば、より効果的か検討し、誘客、集客に役立てていただきたい。訴求力を高めることにつなげていただきたい。
- 昨年度に比べ来館者数が減少した原因は検証してもらいたい。一方で、高校生、大学生の来館が1割程度増加しているのは、スマホを気軽に見られる人たちなので、アンケー

トにおいて、「何で郷土館や郷土館の催し物を知ったか」という間で、ウェブの割合が増えているのと結びつく可能性がある。今後の来館者増検討の参考になるかもしれない。

- 「めぐりまわし大会」について、ニュースにも取り上げられ、子どもたちもとても楽しそうだった。学校では、生活科の勉強で、木駒を回して昔遊びに触れ合うということをしている学校もあるので、引き続き宣伝したりして取り組んでいけばもっと子どもたちも楽しめると思う。
- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコへの世界遺産推薦書が提出されたが、土曜セミナーでの縄文遺跡群に関する話は非常に勉強になる。その素晴らしさや魅力を、例えば学校への出前授業や老人クラブなどに行って伝えたり、郷土館だけでなく、他館と連携しながら盛り上げていってほしい。
- 登録有形文化財である旧第五十九銀行の建物の外に鉄の扉があるが、大事なものだということを知らずに通り過ぎてしまっていると思うので、何かわかりやすい表示があってもいいのではないか。
- 国道のNTT交差点から海側に曲がって来る時、信号2つ目の電信柱に案内板が設置されているが、曲がるのは一つ先が郷土館の通りなのでわかりづらいと思う。
- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」のイコモスの現地調査で専門家の方々が郷土館を訪れた際には、日本で4件しかない青森県が誇る世界自然遺産、白神山地のことも是非アピールしてほしい。
- 今は、各家庭でお雛様を飾るところも少ないと思う。女性の夢でもあり憧れでもあるので、郷土館でなければできない古い歴史の資料など展示しながら飾ってほしい。
- 多彩な連携展を実施している。LMA連携として素晴らしい実践だ。大テーマを設け、それぞれの館の得意分野などを切り口として展示していくことを提案する。ウェブサイト等でのPRにも力を入れながら続けていってほしい。
- 来年度のゼミのテーマの一案として「郷土館の魅力最大化プロジェクト」を設定し、学生目、二十歳ぐらいの目を見て、マーケティングやファシリティマネジメントの視点から調査、分析、提言していくということを考えている。もし、同プロジェクトの取り組みにご賛同、となったならば3月末までに、その旨、回答していただきたい。
- 50周年がまもなく来るという時にあって、今後改修等の計画などを作る際には、いろいろな人たちの貴重な意見を参考にしながら進めてほしい。また、コーヒーが飲める場所など、憩いの場の充実もお願いしたい。

- 博物館評価の目標の情報発信で、回数ではなく伝わることが大事との話があったが、今の目標の作り方だと、「情報発信すれば達成した。」ことになるので、「広く県民に知ってもらおう。」など課題がわかるように書くと改善していくものが見えやすくなると思う。
- 昨年9月に八戸市博物館で「クマと生きる」展が開催され、想定以上の来館者があった。郷土館からクマの土製品や火縄銃を貸してもらい展示できたおかげもあったと思う。こういった資料貸出など地味な業務も行って、本当に市民を楽しませることに繋がっている。お礼を言いたい。
- 写真の展示もすごく楽しみにしている人たちがいるので、他館に貸出しやすいように写データベース化も進めてもらい、整理して行ってほしい。
- 協議会は、「郷土館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関」であるので、今後、郷土館の在り方等を検討する必要がある際には、この協議会が答申するという形でも協議会を使っていたきたいと思う。